

【経済学史・社会思想史】 只腰 親和 ゼミ



演習テーマ：経済学の古典から現代を読み解く

私は中央大学で教え始めて5年目になりますが、まだ大学にじゅうぶん精通しているとは言えないかもしれません。ただ、ゼミ生諸君とのこれまでのつきあいで、この大学のスクールカラーや学生諸君の一般的性格はある程度分かってきたように思います。そうした経験にもとづいて、さらに大学や学生のみなさんに親しんでいきたいと考えています。

まず何よりゼミでは、ゼミ生同士が仲良くなり、お互いに遠慮なくものをいえる間柄になってもらうことが第一だと考えています。そのために合宿や数度のコンパを、ゼミ生が主体になって運営してくれることを期待しています。そのようなレクリエーションのみではなく、経済学部ゼミナール連合会関係の行事にも積極的に参加することを望みます。そのためには、私自身もアドバイスをするつもりですが、やはり学生のみなさんの主体性がなにより大切だと思います。これまでの教員としての経験の中で、合宿やコンパといった特別のイベントの時だけではなく、ゼミの時間の終了後にゼミ生と食事(時にアルコールもふくむ)に行くことも決してまれなことではありませんでしたが、それはゼミ生1人1人の状態を知って、ゼミ生1人1人が元気に、大学生活を充実したものにして欲しいと考えるからです。

学習内容は、2年次は上に述べたようにゼミ生が忌憚なく意見を言えるようになることが主目的なのでそれに相応しいテキストを選んで、互いに自分の思うところを述べ合って欲しいと思っています。それを基礎に3年次ではアダム・スミスの『道徳感情論』を、みんなで知恵を絞りあい時には首をひねりながら読み深めていきます。経済学の根底にある「ものの考え方」をきっと身につけることができると思います。3年次ではゼミ生をいくつかの研究グループに分けて、各グループがそれぞれの課題を検討しながら、全体としてテキストの理解が深まるようにしていきます。こうした段階を経ることによって4年次には各自のテーマに則して卒業論文を完成させます。仲間とともに作成した卒業論文集を手にした時、「経済学史を大学で学んだ」という満足感にひたれることと確信しています。